

【担当者名】 吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 鈴木伸弥 佐藤一成 岩部達也

【概要】

脳血管疾患や脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法的介入について演習を通して学習する。各種疾患の典型例をペーパーベシエントに用い、評価 問題点抽出 治療プログラム作成の一連のプロセスについてグループワークを通じて演習する。また視覚教材や実技実習を通し基本動作や歩行練習などの基本的治療技術を習得する。

【学修目標】

脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。

1. 各疾患の病期に応じた理学療法の目的を理解し、評価項目の抽出ができる。
2. 得られた評価結果をもとに問題点を把握し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各病態に応じた基本的な理学療法手技が実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	記録とクリニカルリーズニング	診療記録や報告書の記載方法、考察の進め方について演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
3) 4	動作分析	神経障害による動作障害について視覚教材を用いた演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
5) 6	ADL	FIMなどのADL評価方法について演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
7) 8	脳卒中の評価	片麻痺機能検査の評価方法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
9) 10	脳卒中の評価	SIASの評価方法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
11) 12	症例検討	脳卒中急性期の模擬症例を用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
13) 14	脳卒中の評価	バランス能力や基本動作能力の評価方法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
15) 16	症例検討	脳卒中回復期の模擬症例を用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
17) 18	脳卒中の理学療法	脳卒中に対するROM訓練や筋力強化などの機能訓練について実技演習を通し学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
19	脳卒中の理学療法	脳卒中急性期のリスク管理について実技演習を通して	吉田晋

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
20		学ぶ。	佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
21 22	脳卒中の理学療法	脳卒中急性期のリスク管理について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
23 24	パーキンソン病の評価と理学療法	パーキンソン病の評価方法および訓練方法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
25 26	症例検討	パーキンソン病の模擬症例を用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
27 28	小脳失調の評価と理学療法	小脳失調の評価方法および訓練方法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
29 30	症例検討	小脳失調の模擬症例を用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末試験60%、演習前後の課題レポート40%で評価する。

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。レポートについては模範解答例をmanaba上アップするので確認すること。

【教科書】

千野直一 編 「脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編]」 金原出版 2012年

【参考書】

宮上光祐 著 「わかりやすい画像から見た脳卒中リハビリテーション」 新興医学出版 2013年

森 惟明 他 著 「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見」 医学書院 2010年

長谷公隆 編 「運動学習理論に基づくリハビリテーションの実際」 医歯薬出版 2008年

細田多穂 監 「中枢神経障害理学療法学テキスト」 南江堂 2008年

潮見泰蔵 編 「脳卒中に対する標準的理学療法介入」 文光堂 2007年

【備考】

manabaやgoogle drive上に症例情報や動画資料を置いて課題の提示を行う。グループワークではgoogle slideなどを用いて情報共有を行う。課題の提出はmanabaを通じて行う。

【学修の準備】

授業は基本的に2コマ連続で行う。授業時間内は原則グループワークを行う。manabaで動作分析や症例についての課題が事前に出されるので、しっかりと課題を作成して授業に臨むこと（100分）。グループワーク後にレポート課題が出され、成績に反映するため必ず提出すること（100分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を实践できる能力を身につけている。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士）鈴木伸弥（理学療法士）佐藤一成（理学療法士）岩部達也（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験をもとに演習、実技演習を行う。